

2020 年度 第 2 四半期決算 主要な質問に対する回答

Q: 2020 年度第 2 四半期の実績について総括していただけますか？

A: 第 2 四半期の売上収益は、新型コロナウイルスの影響に伴う市況悪化による油圧ショベル需要の減少や、資源価格の低迷等による設備投資抑制に伴うマイニング新車販売や部品サービスの減少、および前年度と比較し円高基調で推移した為替の影響などにより、当社が注力するバリューチェーン事業の内レンタル・中古車売上は前年比で増加となったものの、全体としては前年比 25%減の 3,609 億円となりました。

Q: 中間配当については 10 円とのことですが、株主還元の方針や考え方について教えてください。

A: 当社の配当方針は、連結業績に連動した剰余金の配当を原則として、中間と期末の 2 回に分けて同一年度に 2 度実施する方針で、連結配当性向 30%程度、もしくはそれ以上をめざしています。現在の当社を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、年間連結業績予想に鑑み、株主の皆様の日頃のご支援に感謝の意を表す意味で、上記配当方針を大きく上回る配当額となるものの、中間時点でその一部を配当することといたしました。

Q: 中国において、2Q 累計需要の伸びに対し、売上が伸び悩んでいるように見受けられます。この背景を教えてください。

A: 中国の外資需要は+43%である一方、当社の中国売上高は、為替の影響を除くと若干のプラスに留まりました。中国では、国産メーカーのみならず外資メーカーも巻き込んだ価格競争がさらに厳しくなっており、単純な価格競争の中でシェアを迫る事は、当社のブランドと既存優良顧客層への悪影響があると判断しています。当社としては単純な価格競争には参入せず、販売スタンスは変えて条件を緩めてシェアを取る方針は取っておりません。

このような状況下、当社は従来からの多機能で高価格帯のモデルに加え、10 月より、中国市場向けに 6t クラスの機能を絞って土木専用とした機械を開発し、発売を開始しました。事前のテストマーケティングをもとに、中国市場で増加傾向にある個人チャーター業のお客さまのニーズに応えるため、都市土木に最適な仕様・構造と、高いコストパフォーマンスを実現しています。あわせて、部品サービス・レンタル・中古車・ファイナンスなどのバリューチェーンの強化を中国においてもさらに加速することにより、当社の中国事業を着実に強化していきます。

Q: 2020 年度見通しについて総括していただけますか？

A: 2020 年度の油圧ショベル需要見通しは、新型コロナウイルスの第 2 波の懸念はあるものの 2Q 累計における需要の停滞が当初想定と比較して限定的であったため、前年比▲23%の見通しから上方修正し世界全体で前年比▲10%の約 19 万 5 千台になると見込んでいます。マイニング機械需要においては、世界経済回復遅れに加え、資源価格下落に伴う影響が強まっており、前年比▲35%の見通しから▲40%へと前回見通しを下方修正しています。

以上の状況を踏まえ、業績見通しにつきましては、前回公表値を据え置き、売上収益は 7,700 億円(前年比 17%減)、調整後営業利益は 400 億円(同 48%減)、親会社株主に帰属する当期利益は 200 億円(同 51%減)を予想します。その前提となる 3Q 以降の為替レートは、米ドル 105 円、ユーロ 120 円、元 15.0 円、豪ドル 72 円を想定しています。

Q: 親会社である日立製作所が日立建機を売却対象にしているという報道がありました。コメントをお願いします。

A: 本件については、日立製作所や当社が正式に発表したものではありません。日立製作所では、報道されてすぐに、東京証券取引所に「日立製作所が公表したものではない」との適時開示を出しています。

当社としては今年度から始まった新しい中計に取り組み、これまで注力してきたバリューチェーン事業を、デジタル技術を活用しお客さまとのあらゆる接点において提供するソリューションを深化させることにより、お客さまは勿論、当社の社員、株主の皆さまなどの主要なステークホルダーにとっても企業価値を上げていくことが最重要だと考えています。これまで同様、皆さまにはご支援賜りますようお願い申し上げます。